

# 先生方へ

1990年代はじめに広く環境教育が学校で取り上げられるようになったころ研究会などで「自然観察」も「空き缶回収」も環境教育であるといわれるが、その意味がよくわからないというご質問をいただくことがありました。ご承知のように前者は人間環境の重要な要素となっている「自然」についてよく知る学習活動ですし、後者はごみ排出・資源不足・エネルギー消費などの人間が生み出した「環境問題」を解決する学習活動で、いずれも今日環境教育に携わる人々の共通認識となっている「持続可能な社会(循環型社会)の構築」を目指す環境教育全体像を構成しているものです。

ともすると、こうした学習活動が、それぞれ全体像の中でどのような意味をもち、どのような位置付けになっているのかを認識しないまま、前者は理科で、

後者は社会科や特活などでばらばらに行われる傾向があります。実際の社会でも一つの環境問題解決のために新たな環境問題を生じさせるという可能性もあり、目指す「持続可能な社会」に寄与しないことにもなるでしょう。

今回、本冊子で提案させていただいている「リデュース、リユースの環境教育」も当然、環境教育全体像の重要な位置を占めるものです。本来、環境教育は学習者が主体的に行うものですが、そうした認識を学習者が持つことのできるような支援を是非先生方をお願いしたいと思います。

大阪教育大学名誉教授、元日本環境教育学会会長  
鈴木善次

## ガイドブック活用にあたって

- 内容の一部に企業名、商品名の記載がありますが、特定の商品などを推奨するものではありません。授業にご使用になる場合は、その点のご配慮をいただきますようお願いいたします。
- 資料の出典元により「リターナブルびん」、「リユースびん」の表記がありますが、同義語です。同様に「ワンウェイびん」、「リサイクルびん」の表記がありますが、同義語です。

## 著作権について

- 各章のトビラのイラスト以外の文章、図画は、ご自由に引用、コピーしてお使いいただけます。トビラのイラスト(作者:High Moon)の二次使用につきましては京エコロジーセンターのホームページでご確認ください。
- 本書はPDFデータで提供しています。びんリユース推進全国協議会のホームページより、ご自由にダウンロードしてご活用ください。
- 本書で紹介しています授業で使える動画、ポスター、パワーポイントのデータは、ご自由にダウンロードいただけます。